



令和4年5月31日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

6月号

言葉遣いを大切に（ふわふわ言葉・ちくちく言葉）

校長 河崎 晃二

校庭の木々の葉の色がだんだん濃くなる季節となりました。子供たちも新しい学年にも慣れ、元気に活動しております。保護者の皆様には、日頃より開進第四小学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

*

さて、毎年6月、11月、2月は「ふれあい月間」で、子供たち同士の関わりについてアンケート調査をしています。学級での友達関係にも慣れが出てきて、ちょっとしたことで関係が悪くなることもあります。そこで、気を付けてほしいのは、言葉遣いです。

言葉には、たった一言だけで相手の気持ちを元気にしたり、嫌な気持ちにさせたりする力があります。嫌な気持ちにさせる言葉は、言った人はそんなつもりはなくても、言われた人は、ずっと覚えていて心の傷として残ります。

心が「ちくちく」する「ちくちく言葉」を言うときは、苛立ちや衝動的な感情の処理がうまくできていない可能性があります。他の人の言動に苛立つことは、誰にでもあります。そのときに、感じたままの感情をその場で吐き出せば、気持ちは納まるかもしれませんが、相手を傷付け、恨みをもたれることとなります。

反対に、相手を元気付け嬉しくなる「ふわふわ言葉」は、相手の気持ちを思いやった言葉です。どう相手に接すれば相手が楽になるのか、あるいは、状況が好転するかが考えられています。

「言葉のキャッチボール」と言われるように、どのような言葉のボールをキャッチするかによって、受け手の感情は変わります。「ふわふわ言葉」のようなやさしいボールが投げられたら、受け手は安心してキャッチできます。そして、同じようにキャッチしやすいボールを投げ返そうとするものです。こうした環境では、自然と場の雰囲気は良くなり、会話も活発になります。

一方、「ちくちく言葉」が多い環境では、ボールが凶器になってしまいます。不意に心がちくちくするようなボールを投げつけられたら、受け手は傷ついて苛立ち、そこから「ちくちく言葉」の応酬になってしまいます。こうした環境に身を置いていると、常に緊張し、自分を守るために言葉の凶器を考えておくこととなります。

誰にでも不快を感じる瞬間は訪れます。そのときに、ぐっと堪えて自分の感情をコントロールし、「ふわふわ言葉」探して前向きな雰囲気を作り出せるようにしていきたいものです。